

26年2月分 プレカットの荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成26年 1月20日～ 26年2月10日

2. 調査実施方法

全国のプレカット工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
2月分の回答企業数は7社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)=[「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)−(「減少」の評価を行った回答の割合)×2−(「やや減少」の評価を行った回答の割合)]÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) プレカット加工用部材の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/2月	3月	4月
仕入 動向	国産材製材品	△ 28.6	△ 21.4	0.0
	外材製材品	△ 28.6	△ 7.1	△ 7.1
	構造用集成材	△ 25.0	△ 8.3	0.0
消費 動向	国産材製材品	△ 42.9	△ 28.6	△ 7.1
	外材製材品	△ 50.0	△ 21.4	△ 14.3
	構造用集成材	△ 50.0	△ 25.0	△ 16.7
在庫 動向	国産材製材品	△ 7.1	△ 7.1	7.1
	外材製材品	△ 21.4	△ 21.4	△ 14.3
	構造用集成材	0.0	△ 8.3	8.3

プレカット加工用部材の仕入れは国産材及び構造用集成材が2,3月の減少が4月は横ばいに、外材製材品は減少傾向で推移。
国産材製材品、外材及び集成材の消費は共に減少傾向で推移。

国産材製材品の在庫は2,3月の減少が4月は増加に、外材製材品は減少傾向で推移、集成材は2月の横ばいが3月の減少を経て4月には増加に。

(2) プレカット工場受注動向 Weight. D. I.

品目	26/2月	3月	4月
受注	△ 21.4	△ 7.1	△ 7.1
加工	△ 35.7	△ 14.3	7.1
受注残	△ 42.9	△ 21.4	△ 7.1

受注は、減少傾向で推移。
加工は、2,3月の減少が4月には増加に。
受注残は、減少傾向で推移。

モニターからのコメント

(加工用部材荷動き)

- ・製品価格の高止まりと品不足が深刻になってきている。
- ・徐々に消費は増加の傾向、消費税率アップ前の入荷増により在庫率は多目に推移。
- ・国産材も天井感あり、当用買い、米マツ及び欧州材共コスト高に振れているためタイミング見て仕入れ。消費は全体的にトーンダウンしてきている。平均在庫を保つよう対応。
- ・2月の物件が、大工、合板及び断熱材等で遅れ、3月以降にずれ込んでいる。

(受注動向)

- ・毎年、雪または低温のため基礎工事に不安があり、冬期は着工数が減少する。
- ・プレカットは12月がピークで、ピークを過ぎた感あり。